

年長5歳児 そう組 6月『動物園の人に聞いてみよう！』

<活動の経過>

ある日、ウーパールーパーのヒラヒラがなくなったことに気付いた子どもたち。「大人になったからヒラヒラがなくなったんじゃない?」「トカゲだったのかも!」「病気かも?」など、思いを巡らせながら学級で話し合ったが結論がでない。そこで詳しい人に聞いてみることにした。まずは身近な教師に聞いてみたが、やっぱり分からない。「動物園の人なら詳しいんじゃない?」という子どもの提案に教師も「じゃあ、教えてもらえるか聞いてみよう!」と連絡を取ったところ、ウーパールーパーやカエルについて聞きたいことをオンラインで教えてもらうことになった。ウーパールーパーと思っていたのが実はエゾサンショウウオだということや、カエルは川に逃がさないで最後まで大切に飼うことなどを教えてもらう。次の日から、カエルの餌(虫)を探してあげたり、捕った蝶を逃がしたりする幼児も出てきた。

<教師のねがい>

- ・幼稚園外の環境から刺激をもらって、さらに興味を高めたり、生き物を大切にすることを知ったりしてほしい。

大きくなったらヒラヒラ(エラ)がいなくなるので、なくなるんです。

どうしてヒラヒラがなくなったのかな?



<見取った幼児の姿、〇考察>

- ・生き物の日々の変化や疑問について、今までは予想して楽しんでいたが、どんどん本当のことを『知りたい』『分かったい』という気持ちが高まってきた。
- 教師が「詳しくないから分からない」と答えを出さなかったことで、「じゃあ、誰に聞けばいい?」という姿につながった。
- ・毎日カエルの餌を捕ったり水を替えたり実際にお世話をする中で、生き物を飼うことの大変さや、飼いたいという気持ちだけでは飼えないということが分かりつつある。
- 教師からではなくて、円山動物園の人から教えてもらったという特別感があったことが、子どもたちの記憶や刺激になり、学びの深まりにつながったと考える。

次へのステップ

遊びや経験が次へつながり、深まるための構想は?

- ・今回の事例で子どもたちは幼稚園外の人にも教えてもらえるという経験をした。これからも疑問をもったことを聞いてみたいと思った時に、教師、友達、保護者、外部の施設など選択肢を広げていくことが有効である。そうすることで、これはあの人に聞けばいいと主体的に学ぶことにつながるのでは?

～話し合いから～

●この事例で一歩踏み出すために特に有効な援助は何？

- ・話し合いを積み重ねてきたことや思いを巡らせることを大切にしてきたことで、個々が関心をもって話し合いに参加していた。教師がすぐに答えを出さず、幼児の“知りたい”“どうしたらよい？”という知的好奇心、考える力を引き出すこと、考える楽しさを大切にしてきた。
- ・教師がすぐに動物園に連絡を取って実現できるようにしたことが、思いの継続につながった。
- ・聞いてみたいことを自分たちで考えたことで、動物園の人の話も自分事として感じられた。

●この経験を次にどのような経験につなげていくか？

- ・“動物園”という自分たちで行こうと思えば行ける場所であることや、今回質問に答えてくれた動物園の方のことが大好きになったことから「次にまた聞いてみよう」と声があがるのではないかな？幼稚園の外にも助けてくれる人がいるのだということを感じられた。今後、遠足で動物園に行く際に、動物園の方に会って、サンショウウオやカエルのその後をお手紙などにして届けたらよい。